

第 1 回子ども・子育て会議 意見書に対する市の見解

1. 整備手法・建設場所に関する意見

Q 他の公園は候補に入らないのか。まずは「2園体制（各60名）」がよい。

A 他の公園も検討しましたが、地域バランスと既存利用状況から後飯町公園を最適と判断しました。令和6年度に整備した駐車場が活用でき、建設費用の縮減も可能です。また、2園体制を維持したままであると修繕などの維持管理費が2倍近くかかることになるため、1か所に集約し、公立ならではの専門的な支援機能を集中させることが、将来的な児童数減少への最善の適応策であると考えています。

Q 第一中学校のグラウンドの一部を駐車場で使用しコストを抑制して、旧第三保育所を大規模改修する案はないか？

A 旧第三保育所を大規模改修するパターンだと、公適債が使えないため、実質的な銚子市の負担が第二保育所を大規模改修するより高額になってしまいます。工事中の一時的な移転が不要であるというメリットはありますが、第二保育所（後飯町公園）より東側に位置しているため、西部地区の方への影響が大きくなってしまいます。

Q 多額の投資を避け、投資を最小限に抑えるべきでは？

A 改修案（寿命約20年）と新設案（寿命60年）を比較した結果、将来的な建て替えや度重なる修繕費を考慮すると、新設の方が中長期的な財政負担（ライフサイクルコスト）は軽減されます。また、「公適債」の活用により市の実質的な負担を抑えつつ、再編を進めていきたいと考えています。なお、設計にあたっては、可能な限りコスト縮減を検討します。

2. 新たなサービスと運営に関する意見

Q 民間連携や市立病院での病児保育実施はできないのか？

A 私立保育園で病児保育を実施する体制をとれるようであれば、市からの補助金（一部を国、県の補助金を財源として）を交付する形で実施できるため、公立保育所ではなく私立保育園での実施も可能ですが、スペース的にも人材的にも難しい状況にあると認識しています。また、市立病院で病児保育を実施することについては、保育のノウハウがない中での保育士確保や保育スペース整備をゼロから行う必要があり、本業である医療の提供から離れた新たな負担を伴うため、市立病院での病児保育の実施は困難と考えています。以上のような状況から、公立保育所内での実施を主軸に進めたいと思っています。

Q 医療的ケア児受入れにあたり、地域の医療体制は整っているのか？

A 医療的ケア児の受入れについては、ケアの必要性の度合いによりますが、看護師常駐のもと、主治医・かかりつけ医との連携、緊急搬送先となる病院を事前に定めるなど緊急時の連絡体制を確認しておくことで、軽度の児童の受入れは可能と考えています。

3. 雇用・広報・地域貢献に関する意見・質問

Q 会計年度任用職員の雇用継続への配慮は？

A 児童数に合わせた配置となるため、徐々に職員数を減らしていくこととなります。再就職先の保障はできませんが、市内の私立保育施設や近隣自治体に対し、職員採用の予定がないか照会し、求人情報を提供するなど、可能な範囲でサポートします。

Q 出生数推計の妥当性は？

A 推計は一般的な統計手法に基づきますが、本市の急激な減少傾向を重く受け止めています。計画策定後も毎年の出生数と乖離がないかモニタリングし、必要に応じて運営規模の弾力的な調整を行います。

Q LINE による情報提供は自発的に登録した（積極的な）方向けであるが、自ら情報を取得しようとしな（消極的な）方に向けたアナウンス方法があるとよい。

A デジタルツールに加え、広報誌、子育て支援センター等の子育て支援施設などでのチラシ配布等、多角的な広報活動を展開し、広く市民の理解を得るよう努めます。

Q 現行の第二保育所の跡地への公園整備の予定は？

A 第二保育所跡地の利用方法については現在未定ですが、遊具を備えた公園として再整備するかどうか、公園管理部署と予算検討を含めて協議していきます。

4. 施策の優先順位と代替案への意見

Q 私立保育所への補助金や遊び場整備を優先すべきでは？

A 放課後児童クラブや公園の充実は並行して進めるべき課題であると認識しています。それは別に、公立保育所を新設するのは、私立保育所では対応が難しい「セーフティネット（経済的困窮、虐待対応、高度な発達支援等）」としての公的責務を果たすためであり、私立保育所への補助金による代替ではなく、市が責任を持って拠点を維持する（最低限1か所）必要があると考えています。